

第2学年B組 英語科授業案

日 時 平成27年6月15日 第3校時
場 所 2B 教室
授業者 齋川 浩

1 単元 Behind the Japanese School Lunch (Life in the World)

2 単元の構想

(1) 本単元で目指す子どもの姿

日本の給食より、好きなものを食べる外国の方がよいと考える外国の人の話を聞いた子どもは、それぞれのよさを調べ始めた。多くの外国の人は、日本の準備や片付けを自分で行うことは理解できないと聞き、子どもは準備や片づけのよさについて考える。外国の人に準備や片づけをするよさを伝え、外国の人の準備や片づけについての考えを聞くことで、互いのよさや考えを認め合おうとする。

(2) 本単元で伸ばしたい力

子どもは前単元で、日本の風呂のよさについて調べた。追究していく中で、日本の風呂には、癒やしの効果があり、外国の人にも受け入れられることに気づき、自文化理解力を身につけた。そして、日本特有の風呂文化を大切にしていき、外国の人に日本の文化や日本特有のものについて広めたいと考えるようになった。

本単元は、子どもの学校生活に関係の深い学校給食を教材とする。みんなで同じ物を食べたり、自分たちで準備や片づけをしたりして、学級の仲間や教師と一緒に食べる日本の学校給食は、世界ではめずらしい。近年、アメリカ、ドイツ、中国などで、日本の学校給食のすばらしさが紹介され、注目されている。子どもは、日本の学校給食と外国の学校給食を比較し、よさや特徴について追究することで自文化理解力を高める。また、日本の学校給食について外国の人と話をすることで、お互いの考えの相違を知り、異文化受容力を高める。また、画像、絵、グラフなどを用いて相手に伝わりやすいように工夫することで、戦術的対応力を高める。

(3) はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

PROSPECTの段階では、日本も、弁当や、食堂で好きな物を食べた方がよいと考えている外国の人のビデオレターを視聴する。視聴した子どもは、それまで、あまり目を向けたことのない日本の給食のよさとは何かを考え始める。また、本当に外国のシステムの方がよいのかと思い、外国と日本の給食のそれぞれのよさについて調べ始める。

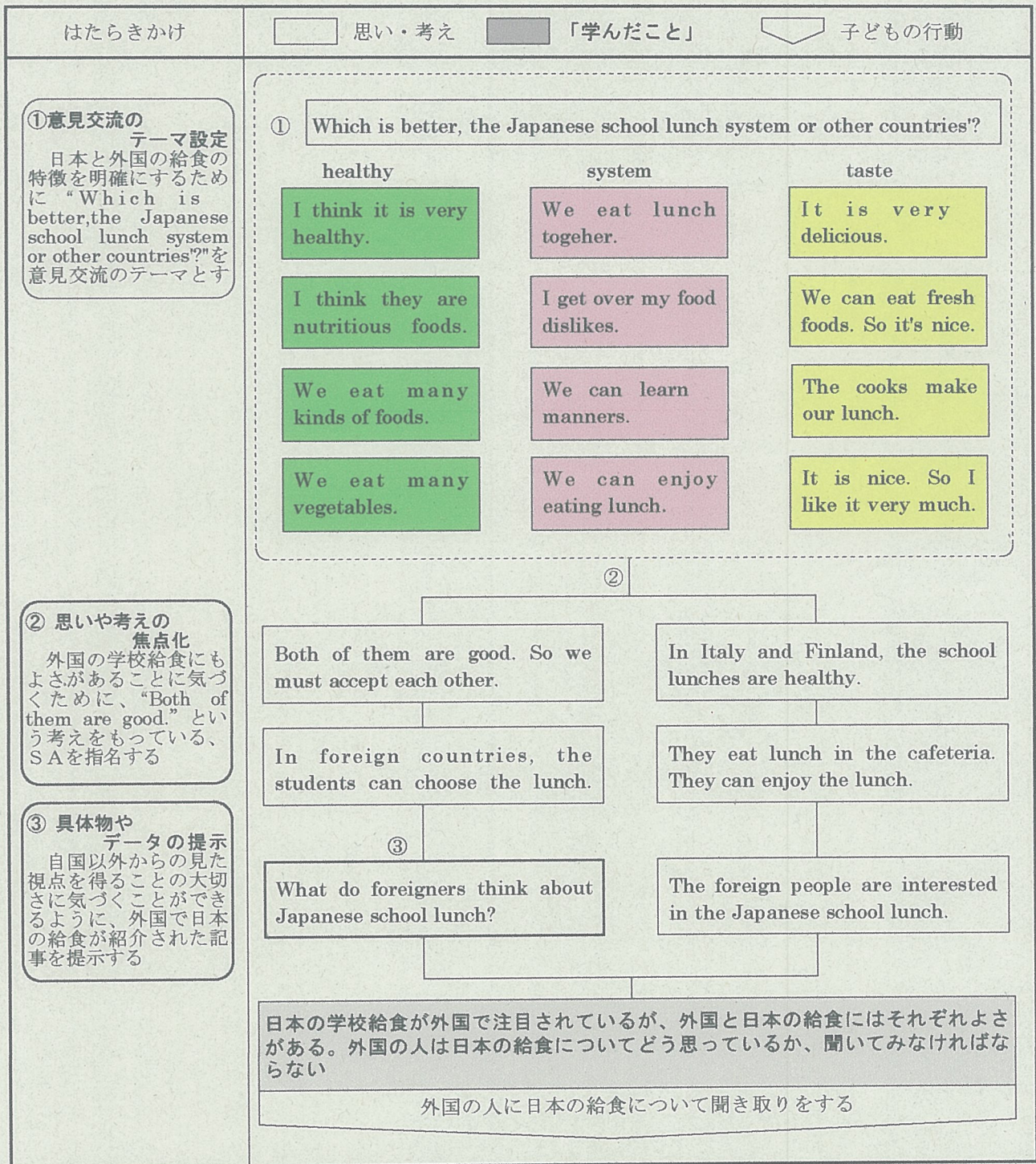
PROGRESSの段階では、子どもは追究を経て、どちらの給食のシステムの方がよいのか明らかにしたいと思い、“Which is better, the Japanese school lunch system or other countries?”をテーマに意見交流を行う。意見交流の中で、子どもの調べの中から日本の給食は健康的で、多くの国が日本の学校給食に注目している記事を取り上げる。子どもは、なぜ外国の人が日本の給食に注目し、どう思っているのか聞きたいと思い、聞き取りをする。そして、ヘルシーさが外国の人に評価されていることを知る。一方で、自分たちで準備や片づけをすることは、外国の人に理解されないことを知る。準備や片づけのよさについて考え始めた子どもは、“What are good points of serving ourselves and clearing up?”をテーマに意見交流を行う。準備や片づけにも、さまざまなよさがあることを再び伝えたいと思った子どもは、外国の人に連絡をする。

PROCEEDの段階では、給食のよさや準備や片づけに対する自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞き取ったりする活動をとおして、互いのよさや考えを認め合うことの大切さを再認識する。そして、給食以外にも日本と外国のよさがあるであろうと考え、他の例を探し、互いのよさを認め合う姿勢をさらに高める。

4 本時の構想 (5/15)

日本も弁当や食堂で好きな物を食べた方がよいと考える外国の人がいると知った子どもは、それまであまり目を向けたことのなかった日本の給食のよさに目を向け始めた。本当に外国のシステムの方がよいのか疑問に思い、外国と日本の給食のよさについて調べた。外国の給食は弁当を持ってきたり、食堂で自分の好きなものを選んで食べたりできるよさがあることを知る一方で、日本の学校給食は、栄養のバランスがよく、健康的であると改めて認識した。

本時は、日本と外国のどちらのシステムの方がよいか、“Which is better, the Japanese school lunch system or other countries?”をテーマに意見交流を行う。「healthy」「system」「taste」の視点で意見交流することで、日本の学校給食は、さまざまなよさがあると考えられる。外国の学校給食のよさにも焦点を当てるために“Both of them are good.”という考えのSAを指名する。子どもは、SAの意見を聞き、日本と外国の給食は、それぞれいいところがあると再認識する。その後、日本の学校給食が外国で紹介された記事を知った子どもは、外国の人は、日本の給食にをどう思っているのか聞き取りをしたいと考える。



4 本時の構想 (11/15)

子どもは、日本の給食より外国の方法がよいと考える外国の人の話を聞き、これまで目を向けていなかった双方のよさを調べ始めた。日本の給食のよさが、外国でも紹介されていることを知った子どもは、日本の給食について岡崎の外国の人にも聞き取りをした。子どもは、準備や片付けを自分たちですることを外国の人に理解されないことを知り、そのよさについて考え始めた。

本時は、外国の人が気づいていない視点を明確にするために、“What are good points of serving ourselves and clearing up?”をテーマに意見交流を行う。子どもは、「responsibility」「manner」「cooperation」の視点で意見交流し、準備や片づけのよさを再認識する。その後、“The foreigners don't understand them. Why?”というSAの考えを取りあげ、なぜ外国の人が理解できないのか明確にする。子どもは、外国の人には、習慣や経験がないためそのよさを理解できないと考える。そして、外国の人によさを伝えたいと思い、意見交流の場を作ろうとする。

